

愛知県震度観測・調査報告書－第34報－の概要

1 調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、平成26年1月～12月に発生した地震と震度に関する情報をまとめるもので、防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的として報告書を作成している。昭和56年より1冊／年で発行しており、本書で34冊目となる。トピックスとして、「南海トラフ地震に関する愛知県の被害予測調査」及び「南海トラフ周辺での海底地殻変動観測」についての解説並びに「2014年御嶽噴火」についての考察を掲載した。

2 愛知県震度観測・調査報告書－第34報－の概要

(1) トピックス

ア 南海トラフ地震に関する愛知県の被害予測調査

平成26年5月に愛知県が公表した「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」についての解説を行い、地震防災対策の推進の必要性について述べている。

イ 南海トラフ周辺での海底地殻変動観測

GPSの利用できない海底の地殻変動を感知するための海底地殻変動観測について、南海トラフ周辺での現在の観測状況等について解説し、今後の展望等について述べている。

ウ 2014年御嶽噴火

2014年の御嶽噴火の様相及び噴火のメカニズム等についての解説を行い、火山防災に関する考察を述べている。

(2) 震度観測資料

ア 愛知県における地震

平成26年に、県内のいずれかの市町村で震度1以上が観測された地震の発生は29回であり、震度4以上が観測された地震の発生はなかった。

イ 国内の主要な地震

平成26年に、国内で、被害を伴った地震の発生は7回であった。

ウ 世界の地震

平成26年に、世界で人的被害を伴った地震の発生は27回であり、死者50名以上の地震の発生は1回あった。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民生活プラザ等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。